

1. 研究主題

**自ら進んで考え，仲間とともに生き生きと学ぶ生徒の育成**

- 「自ら進んで考え」とは
  - ・ 問題の発見から解決に向けて，習得した知識・技能を活用し，課題を解決するための思考力，判断力，表現力等を発揮しながら意欲的に学習を進めようとする事。
- 「仲間とともに生き生きと」とは
  - ・ 学習活動の中で，目的に向かって仲間とともに伝え合い学び合うこと。

2. 主題設定の理由

(1) 現代社会の今日的課題から

現代社会は，グローバル化や情報化が進展し先を見通すことがますます難しくなっている。これから新しい時代を生きる子供たちが予測できない未来に対応するために，社会の変化に受け身で対応するのではなく，「自ら進んで考えて」そして「人と関わり合う中で」学ぶことができるように，学校教育がその役割を果たしていかなければならないと考える。

(2) 全国学力・学習状況調査

平成28年の全国学力学習状況調査では，本校の生徒アンケートの結果「1，2年時の授業では，自分の考えを発表する機会が与えられていた。」 自校33.4%（全国46.2%）。「1，2年時の授業では，生徒の間で話し合う活動をよく行っていた。」自校28.0%（全国34.2%）となっており，話し合い活動が少ないと感じている。自分の考えや，意見を持たせるための指導工夫の改善と，表現することや交流をすることを通して自信を持って学習に取り組めるように，話し合い活動を含む学習活動を多く設定したい。

3. 研究の仮説

〔仮説1〕

各教科の授業において，問題の解決に向けて見通しを持たせることによって，自ら進んで考え学習することができるであろう。

〔仮説2〕

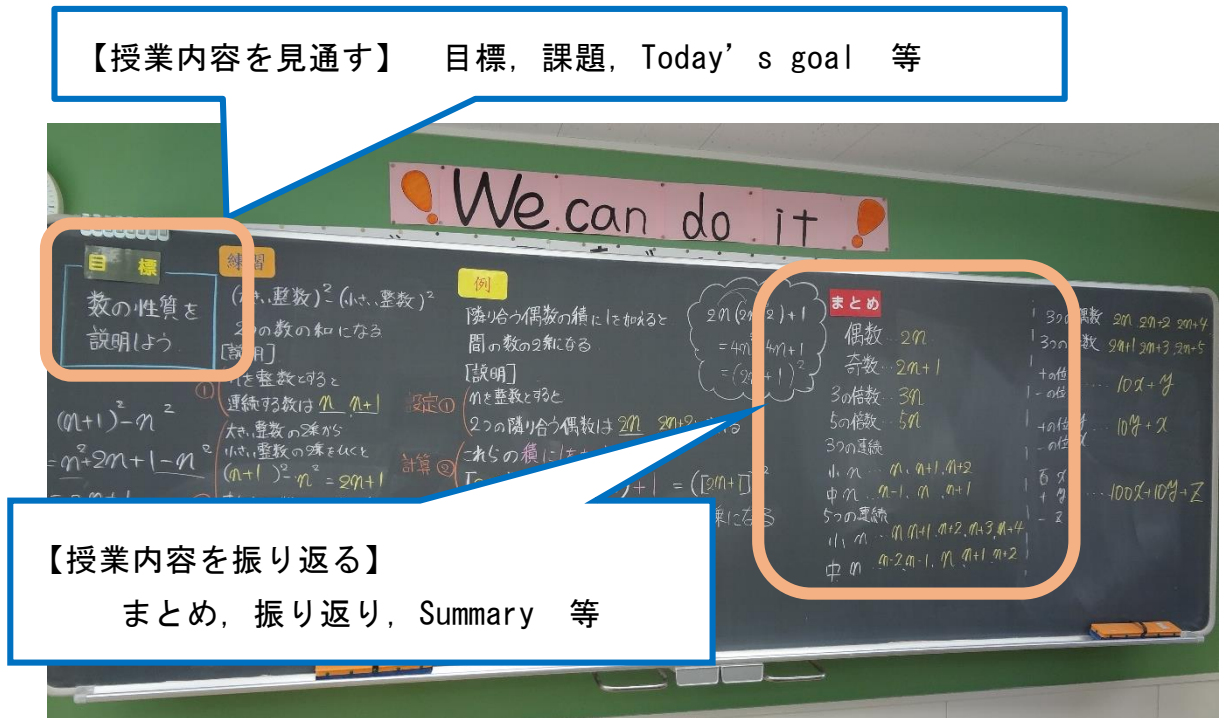
各教科の授業において，話し合い活動を含む学び合う場面を設定することによって，仲間とともに生き生きと学ぶことができるであろう。

#### 4. 具体的な取組

##### (1) 課題の設定, 提示の仕方の工夫

授業において見通しと振り返り（課題とまとめ）を明確にし、授業の導入段階で生徒の学ぶ意欲をいかに高めていくのかが重要となる。

(例) 「生徒の学びに向かう力」を引き出す課題の設定・提示の工夫。(教師主導の課題提示だけではなく、生徒との対話を通して提示する。身近なものに関わらせて提示する等。) また、提示した目標や課題を明確にするためのプレートを板書に使用している。(教科によって表現は異なる) など



##### (2) 認知特性に応じた, 様々な学習活動を取り入れる

認知特性を意識し、1時間もしくは単元の中に多様な感覚を用いる活動を取り入れる。(視覚・聴覚・運動器官など) また、体験して学ぶ時間を取り入れる。

(例) ICTの活用, 映像を見せる, 画像(写真・文字)を見せる, 実験・観察や実物提示など



### (3) 話し合い活動を含む交流場面の設定

問題を解決する過程の中で、ねらいを明確にした学び合う場面を設定することで、生徒の思考力・コミュニケーション能力が向上し、仲間と生き生きと学ぶ姿勢につながる。その際、以下のA～Cの点に留意する。

#### A 話し合いの際に、どんな力が必要か

- ① 自信を持って自分の意見を発信できる。
- ② 分かりやすく話そうという意識を持って、大きな声ではっきりと話すことができる。



#### B 今日の話合いは何のための話し合いなのか

- ① 分かり合うための対話（相手を分かる）
- ② 磨き合う対話（自他の相違を明らかに）
- ③ 高め合う対話（より良いものを生み出す）
- ④ 問題解決のための対話（課題解決の方法を確認する）
- ⑤ 発信（書く、話す、表現する）をするための対話
- ⑥ 心の成長を図る話し合い



#### C 話し合わせ方の手法例

- ① 人数 ペア、トリオ、4人、班（5～6人）、学級全体などパターンがある。
- ② 学級全体での意見交流の方法 全体発表、画用紙を貼る、ネームプレートを貼るなど話し合いの目的によって使い分ける。

##### 【話し合い後に意見交流をしない】

交流を目的としない、交流しなくても本時のねらいを達成していると言えるときは交流を行う必要はない。

##### 【全グループが順に発表する】

全体の前で話をさせることが目標ならば適している。

また、多様な意見を挙げたいときや聴くスキルをつけさせたいときに用いる。

##### 【小ホワイトボードや画用紙に書いて貼る】

意見の内容（同じ、違う、多い、少ない等）を一目で見ることができる。その中で代表を指名して発表させることが多い。

##### 【ネームプレートを黒板に貼る】

少数意見でも埋もれることがない。また、自分の意思決定を必ず行わせることができる。道徳で用いられることが多い。

- ③ 話し合いのスキル 生徒、教師が身に付ける話し合いの仕方、させ方のスキル

##### 【話し合いのスキル】

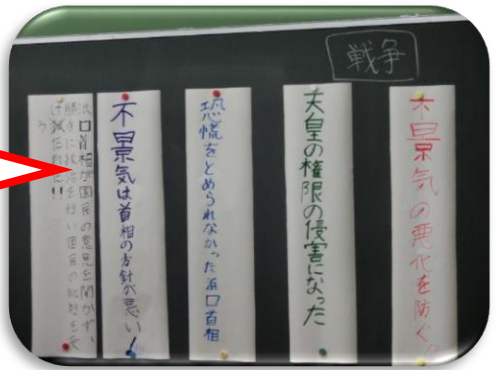
- ① 相手の言葉をオウム返しする。
- ② 相手の話を要約し、確認する。
- ③ 話し合った内容について、共通点と相違点を発表する。
- ④ 相手の意見に対して、引用しながら質問をしたり、アドバイスしたりする。



意見の交流や議論を中心として、ねらいを明確にして言語活動を位置づけることにより、思考力・判断力・表現力を育てていくことが重要。



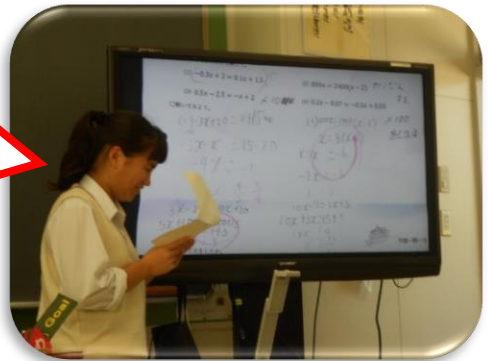
短冊を使ってグループの考えを発表。



柔道の授業で自分の考えをワークシートにまとめる。



実物投影機で問題の解法を発表する。



ペアで表現の工夫を話し合う。

### (5) STUDY MAP の作成

本校では、1 単位時間を見通せるように、板書にプレートを使用し、課題からまとめまでの流れをもたせるように取り組んでいる。

これをさらに単元の見通し、年間の見通しをもって授業に臨めるように「STADY MAP」を作成した。

これには評価の方法の説明に加え、各教科の年間計画や評価材料が記載されており、生徒だけでなく、保護者にも理解してもらえるようになっている。

新指導要領を実施していくにあたっては、道徳の評価についてや、各教科の観点の変更などを説明していくためにも、有効な資料になっていくことが期待される。

令和元年度版



＝『評価』・『評定』説明資料＝  
各教科の1年間の流れ  
確かな学力をつける授業の受け方

### 「評価」のABC、「評定」12345って、何？

通知表の「評価」にはA、B、Cが、「評定」には1～5が記入されることとなりますが、このことの意味も併せておく必要があります。

観点別学習状況の範囲	達成率	評定	
A 十分満足できると判断されるもの (100点満点で70点以上)	87.5%～	十分満足できると判断されるもののうち、特に高い評価のもの (1000点満点で700点以上)	5
	75%～	十分満足できると判断されるもの (1000点満点で700点以上)	4
B おおむね満足できると判断されるもの (1000点満点で400点以上)	4.5%～	おおむね満足できると判断されるもの (1000点満点で400点以上)	3
	75%未満		
C 努力を要すると判断されるもの (1000点満点で200点以上)	22.5%～	努力を要すると判断されるもの (1000点満点で200点以上)	2
	4.5%未満		
	22.5%未満	一層努力を要すると判断されるもの (1000点満点で200点未満)	1

### 第3学年 道徳

#### 教科の目標、学習教材および学習の進め方

目標	1. 題材を主体的に自分との関わりで考え、自分の生き方を見つめ直そう。 2. 題材の登場人物や友人の考え方、感じ方に出会い、様々な観点から物事を考えることで、社会の中でよりよく生きるための基盤を身につけよう。	
使用教材	教科書「新しい道徳」	教科書ファイル 持ち物
学習	【確かな学力を身につけるには】 平成31年度から道徳は特別な教科になり、教科書を用いて授業を行うことになりました。それにともない、教科書の題材を通して考え、議論する道徳の授業を通して道徳的な価値に慣れていくこととなります。 授業では自分の考えを持ち、それを理由とともに発表できることが大切です。また、友人の意見に耳を傾け、自分とは異なる視点の考えに触れましょう。  【言語活動について】 以下のような活動を行います。 ■ 議論（話し合い活動） ＜話す＞ ①意見には必ず、理由や根拠を挙げて説明する。	

6. 研究の実際

時間	学習活動	教師の活動	評価規準など (観点, 方法等)
導入 (15)	1. 集合, 準備運動, ストレッチ 2. 挨拶 3. 本時の目標の提示	・健康観察  ・本時の目標と見通しが持てるよう授業の流れを提示する。	技能①(観察)
展開 (30)	4. ドリルトレーニング	・正しく技能が身に付くよう支援していく	
	5. 前時の状況をICTを活用したり, ゲーム記録をもとに振り返り, チームの課題に応じたメニューを選択していき, 練習を行う。	・前時の状況が分かるゲーム記録やICTを活用したメニューの課題が分かるように課題を明示し, 見通しを持たせる。	判断③ (観察)
まとめ (5)	6. ゲーム チームの課題を意識しながらトレーニングの成果を発揮できるようにゲームに参加する。 ・ゲーム記録をつける	・ICTを活用し, 興味・関心を高める。 ・トレーニングを促していく。  ・トレーニングの成果を発揮できるようにアドバイスしていく。	技能①②(観察)
	7. 片付け 8. 本時のまとめ 9. 挨拶	・安全に留意させて協力して行わせる。次回予告 言語活動を通して, 自分の考えをまとめる。	関心・意欲・態度③ (観察)



## 7. 成果と課題

### ○成果

(1) 全校生徒を対象としたアンケート調査の結果から、以下のような授業改善の傾向が見られ、生徒は授業に対し前向きに取り組めるように改善されてきている。

＜令和元年度＞ ～校内 生徒アンケートから～	
質問項目「当てはまる・だいたい当てはまる」と回答した生徒の割合	
1 授業の中で、自分の考えを文章でまとめることができる。	75.3%
2 授業の中で、自分の考えを発表したり、説明する機会がある。	69.5%
3 授業の中で、仲間と考えを交流したり、話し合う時間がある。	86.9%
4 仲間と考えを交流したり、話し合うことができる。	88.6%

(2) 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果から、生徒が意欲的に話し合いに参加していること、また自己肯定感の向上があることが見られる。話し合い活動が授業で増えると、授業での教師の関わり合いが増える、生徒の発言も増えることになり、言語活動が増加する。それに伴って授業への意欲も増しているという結果となった。国語、数学の授業についても意欲的に参加している生徒の割合が高まった。

＜令和元年度＞ ～全国学力学習状況調査 生徒質問紙から～	
質問項目「当てはまる・だいたい当てはまる」と回答した生徒の割合	
1. 1, 2年生の時に受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。(話し合いに関する質問で比較)	86.1%
2. 自分にはよいところがあると思いますか。	86.0%
3. 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	96.5%
4. 国語の授業の内容はよく分かりますか。	87.2%
5. 数学の授業の内容はよく分かりますか。	73.2%

### ●課題

生徒アンケートの結果から、「考えを文章でまとめること」は授業での機会もあり、生徒も苦手意識が減少しているといえる。

しかし、授業の中で、「自分の考えを発表すること」は機会がしっかりと確保されているが、まだ苦手意識があると思われる。

＜令和元年度＞ ～校内 生徒アンケートから～	
質問項目「当てはまる・だいたい当てはまる」と回答した生徒の割合	
○ 自分の考えを文章でまとめる機会がある。	74.5%
○ 自分の考えを文章でまとめることができる。	75.3%
○ 自分の考えを発表したり、説明する機会がある。	81.5%
○ 自分の考えを発表したり、説明することができる。	69.5%